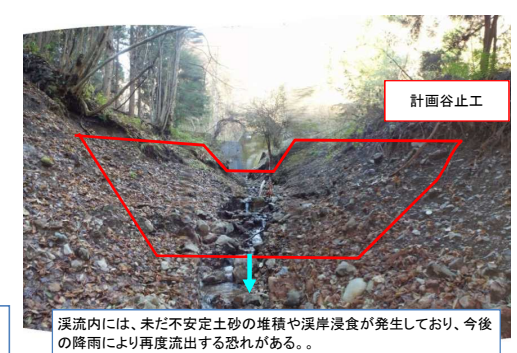
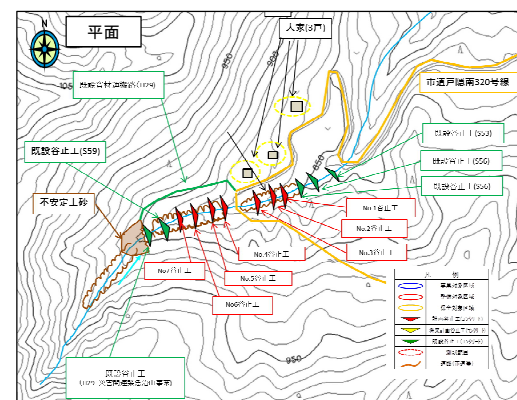
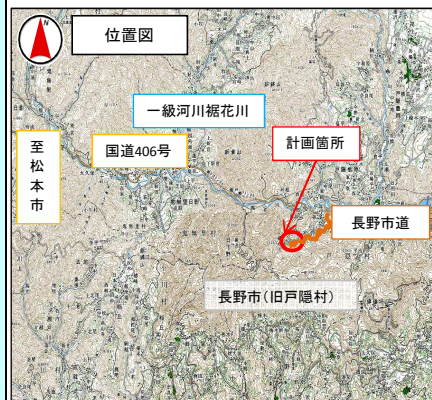


(様式2)新規評価シート

林務部 森林づくり推進課

事業名		山地治山		路河川名等				
事業毎の通番		9	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)	蔵ヶ川(ぞがかわ)		
事業概要	事業目的	平成29年7月の梅雨前線に伴う豪雨災により、当該渓流内に堆積していた土砂が下方市道へ流出した。当該渓流内は脆弱な地質であり、大雨の度に土砂が流出する恐れがあり、渓流内は不安定な状態となっている。今後の降雨により再度、不安定土砂が下方へ流出する恐れがあることから、新たに谷止工を施工し、渓流の安定を図る。						
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等	森林法			
	関連する事業、計画等							
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家3戸、市道500m						
	着手年度	平成30年度	事業期間	4年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
	完成年度(見込み)	平成33年度	費用対効果	2.1	国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容(主な工種)	谷止工7個			55,000	27,500	24,000	3,500
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	人家3戸、市道500m					
		間接的効果(定量的・定性的)						
	評価の視点	必要性	○人家戸数:	3戸	評価	C		
○公共施設数:			市道					
○災害時要援護者関連施設の有無:		なし	評価	A				
○保安林・林業用施設:		保安林(32%)						
重要性		○過去の災害履歴:	あり	平成29年7月豪雨災	評価	A		
		○交通遮断による地域経済への影響:	影響度中	渓流周辺に集落有り				
		○地域防災計画上の位置付け:	あり					
効率性	○費用便益比(B/C):	2.14	評価	B				
	○事業期間:	4年間					(H30~H33)	
	○工法等の比較検討:	なし						
	○流域の総合調整:	あり						
緊急性	○流域の地形、地質:	第3紀層泥岩	評価	A				
	○平均渓床勾配(平均山腹勾配):	平均渓床勾配12°						
	○下流の堰堤等の整備状況:	あり						
	○山地災害危険地区危険度・土砂災害防止法指定区域:	崩壊土砂流出 586-11 A、581-17B						
計画熟度	○事業情報の共有:	地元住民他と調整済	評価	B				
	○地域の取り組み:	地域住民、長野市から事業計画に対し要望がある						
	○地域の合意形成:	現地打合の際、周辺関係者との合意形成が図られている						
	○住民との協働:	なし						
部局意見	H29年7月の豪雨災害により土石流が発生し、市道に土砂が流出した。渓流内にはまだ土砂が堆積していることから、今後の降雨等により下方の人家や市道へ流出する恐れがあることから、対策工事を実施する必要がある。			採択状況	総合評価			
				○	B			
技術管理室意見	部局の意見を適当と認める。							

【位置図、平面図等】



事業概要説明図表

事業周辺環境

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当該地域は、新第3紀層の泥岩地帯であり、固結度が緩く、また風化しやすい地質である。社会的には、昭和初期から稲作等が行われ集落が山間部に点在している。当該渓流では、過去に幾度も豪雨の際、下流へ土砂が流出したことから、複数の谷止工が施工されている。	
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	平成29年7月の梅雨前線に伴う豪雨災により、当該渓流内に堆積していた土砂が下方村道へ流出した。当該渓流内は脆弱な地質であり、大雨の度に土砂が流出する恐れがあり、渓流内は不安定な状態となっている。地域住民より新たな治山施設設置の要望があがっている。	
③事業説明等の経緯	現地調査に基づく、復旧に関する概要計画について平成29年7月14日に地元住民へ説明し、了承を得ている。	
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	なし	
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	現状のまま放置した場合、今後の豪雨等により、再び土石流等が発生するおそれがあるため、早急な対策が必要。	
⑥地域活性化への影響と配慮	渓流内の不安定土砂の下流への流出により、下方市道等の維持管理に影響を及ぼすおそれがある。	
⑦その他		
事業代表地点の緯度経度		北緯:N 36° 39'
		東経:E 138° 02'